

シンポジウム 14 企画概要

タイトル	在宅医療をすべての地域に！
------	---------------

テーマ
都市型医療と僻地医療の融合と人材循環

概要
過疎化した離島僻地の高齢化は、都市部より急速に進行している。特に限界集落となった地域や、財政が窮迫した地域では、高齢者や障がいを持った住民が占める割合が非常に高く、その歴史や文化までもが失われようとしている。こういった地域では、産業が少なく、情報、交通、日常生活インフラが未整備で、地域活性の見込みが立たないことが多い。地域の未来を支える若年者を、まとまった収入を得られない地域に定住させることは容易ではない。公的保険で運営する医療と介護に関わる職業は、高齢化地域でこそ多くのニーズを得られるが、働く本人はともかく、家族にまで生活の不便を強いることになるため、離島僻地に根を下ろして永住することができる医療介護の専門職員は稀である。しかし、高齢化した限界地域は我が国全体の少子高齢化のいわば先進地域であり、そのほとんどが国の食料自給を支える最も重要な地域でもある。 離島僻地に医療介護を安定して供給するためには、若く体力のあるスタッフを都市部とのローテーションで、派遣するのが現実的である。しかし、僻地の高齢者ほど人見知りが強く、短期間でのスタッフ交代は地域住民に好まれない。また、こういった地域には独特の風習があることが多く、派遣したスタッフが地域に馴染めない事もしばしばある。離島僻地のニーズに応え、長期に渡って医療介護を支えるためには、中核となるスタッフが地域に常駐し、都市部との情報交換、研修などの交流を頻繁に行っていくことが有効である。そのためには、都市部からの短期または長期の人材支援、交代可能なスタッフの育成が必要である。 今回のシンポジウムでは、都市部医療機関からの巡回診療システム構築、離島と僻地での医学研修の実践、大学医局からの僻地派遣、都市部救命救急センターからの離島派遣、小離島での診療所開設、それぞれに携わった演者に、離島僻地における医療の実際や人材循環システムを紹介していただき、在宅医療を我が国の全ての地域に提供することを可能にするための、都市型医療と僻地医療の融合と人材循環の在り方について討論する。